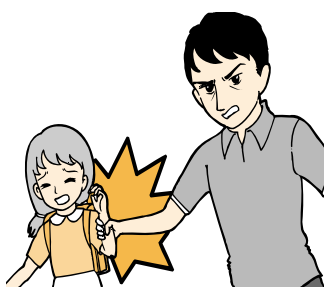


「ひみつのみち」

1 題材名 「ひみつのみち」

2 題材について



誘いに乗らない

性情報があふれる現在、幼い者に対する性加害を目的とした事件が目立ってきており、中にはそれが殺人にまで及んだケースもある。北海道警察では、13才未満の子供に不審者がわいせつ目的などで声をかける「声かけ事案」が増えてきているとしており、子供たちが生活する地域環境の安全性は低下してきていると考えられる。

このような状況の中、子供が自分で自分を守ろうとする構えをもつことや、実際に被害を防ぐ方法を身に付けることがより大切となってきている。そこで、紙芝居を通して、世の中には自分を誘拐したり性被害を加えようとする者がいるという事実を知り、誘いの手口を理解するとともに、危険から身を守るために正しく判断して行動する力を培うことをねらい、本題材を設定した。

3 目標

誘拐や性被害の具体的事例やそれらを回避する方法を知り、危険から身を守るための心構えをもつとともに、実際に遭遇した場合の対処の仕方を身に付ける。

4 教科、領域等の内容的関連

- (1) 道徳 3 - (2) 「生命尊重」
- (2) 生活科 「地域と生活」「公共物や公共施設の利用」
- (3) 学級活動 「清潔な体」「登下校時の安全指導」

5 指導展開例

	教師のかかわり	子供の思考の流れ・学習活動	留意点
導入	紙芝居を見よう。 (児童の実態に応じて登場人物の名前を変える)	話の内容と、主人公の迷いをつかむ。 ・誘いを断るか、ついて行くかを迷っているんだ	・資料1を4枚目の途中まで読む。 (資料1)
展開	もし、自分だったら付いていく？ 断る？ (*主要発問1)	自分だったらどうするか自己判断する。 ・断るよ、だって... ~命がなくなるかも	・殺人、暴力、誘拐性被害に遭う可能性があることを確かめていく。

あいちゃんは、どうして「ついでいこうかな？」って思ったんだらう。

自分の命とハムスターとどっちが大切が分かるよね。

さあ、あいちゃんはその後どうしたかな？

もし、自分だったらどうする？
(*主要発問2)



実際にやってみよう。



紙芝居を最後まで見てみよう。

お母さんはもっと気を付けてって言ってたけど、あいちゃんは何に気を付ければよかったのかな？

他にも、誘いの手口や危険な場所があるんだよ。

誘いの手口

- ・道を尋ねる
- ・親が入院したと偽る
- ・写真を撮ると言って誘う

危険な場所

- ・誰もいない公園
- ・人通りのない道
- ・人気のないエレベーター 等

よく知らない人に誘われたら、はっきりと断ったり、大声を出して逃げたりすればいいんだね。

今日の学習で分かったことを発表しましょう。
みんななら、あいちゃんみたいに誘われても大丈夫だね。

～誘拐されるよ

～いやなことをされる

主人公の葛藤を考えることで、自分の心の底にある思いを表出する。

- ・かわいいハムスターが欲しいから
 - ・おじさんがとってもやさしそうだから
- 誘いに乗った場合の危険について理解し、絶対について行かないことを確かめる。
- ・自分は迷わないで断るよ

主人公はどうなったのかを考えながら紙芝居を見る。

- ・あいちゃんが危ない

逃げる方法を考え学習カードに書く。

- ・大声を出す
- ～いやだー ～離せー ～助けてー
- ・防犯ブザーを鳴らす
- ・暴れる

教師が不審者の役をやり、自分の考えた方法でロールプレイングをする。



あいちゃんがどうなったか考えながら紙芝居を見る。

- ・あいちゃん助かってよかったな
 - ・お母さんにお話してえらかったな
- 被害に遭わないためにはどうしたらよかったのかを考える。
- ・秘密の道を通らないで通学路を通る
 - ・一人で帰らない

いろいろな誘いの手口を知る。

自分の身近に危険な場所がないか考える。

性被害の例

- ・無理矢理キスされる
 - ・服や下着を脱がされる
 - ・体を触られる
- 等

・資料1を4枚目途中から5枚目まで読む。

(資料1)

・学習カードを配布する。
・暴れると危険であることを確かめる。

・ロールプレイングの始まりと終わりで拍手をするなどして劇と現実の区別をはっきりさせる。

・資料1を最後まで読む。(資料1)

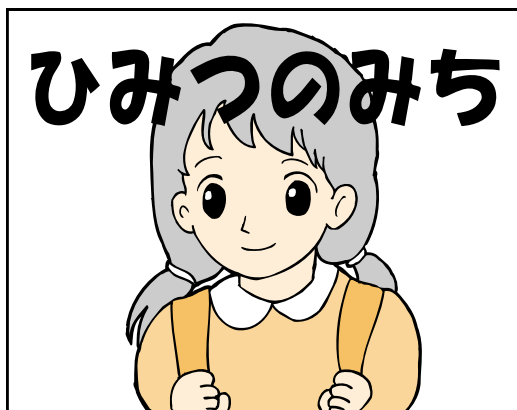


・誘いの手口と危険な場所を押さえる。



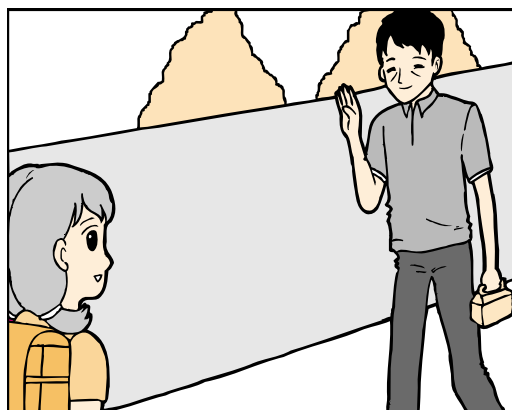
・正しく判断し行動すれば身を守れることを確認し、不安を取り除く。

1 枚目



これは、小学校1年生のあいちゃんのお話です。ある日の学校帰りのことでした。いつも一緒にさくらちゃんが学校を休んでしまい、この日はたった一人で帰らなければなりません。さくらちゃんがないので、あいちゃんは通学路を通らないで、秘密の道を通って帰ることにしました。秘密の道とは、あいちゃんだけが知っている家への近道でした。

2 枚目



秘密の道は、あまり人が通らない、寂しい道でした。しばらく歩いていると、優しいなおじさんが「君、あいちゃんって言うんでしょ。いつも公園で遊んでるよね。」と言って近寄ってきました。そのおじさんのことは、いつも遊ぶ公園で、確かに見かけたことがありました。優しいなおじさんは「あいちゃんにいいものを見せてあげようか。」と言って、持っていた箱を開きました。

3 枚目



「わあ、ハムスターだ。かわいいー！」あいちゃんは、思わず声をあげました。箱の中には、あいちゃんはずっと前から欲しかったハムスターがいたのです。「触ってもいいよ。」とおじさんは言いました。あいちゃんはハムスターをなでたり、だっこしたりしました。ふわふわしてとてもいい気持ちになりました。しばらくしておじさんは、「おじさんの家には、もっとかわいいハムスターがいるよ。それをあげるから、家に行こうよ。おじさんについておいで。」

4 枚目

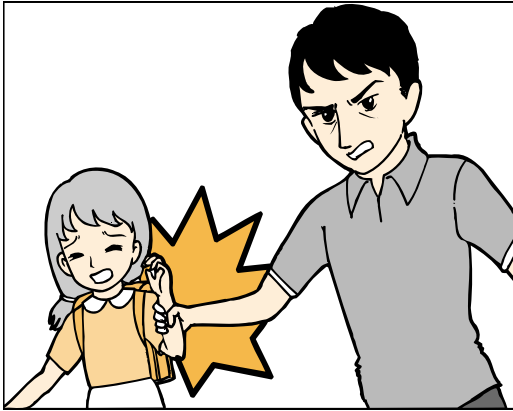


あいちゃんは付いていくか、断るか迷いました。

***主要発問1：「もし、自分だったら付いていく？断る？」**

あいちゃんは、迷いました。おじさんは公園で見たことある人だし、優しいし、かわいいハムスターも欲しいし…でも、あいちゃんはお母さんや先生の言葉を思い出しました。「寄り道したり、知らない人に付いていったりしちゃだめよ。」あいちゃんは思い切って「帰る」と言って、帰ろうとしました。

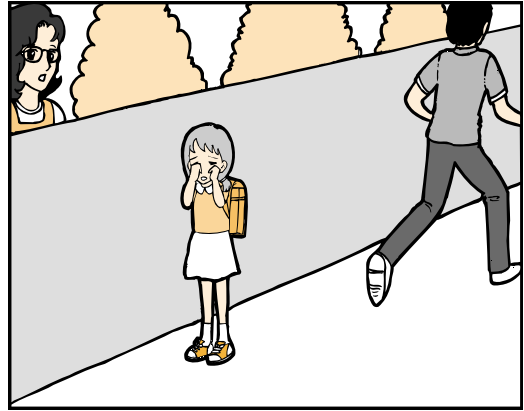
5 枚目



すると、優しくかったおじさんは、急に怖い顔になり「なんだと！いいからこいよ！」と言ってあいちゃんの腕をぐっとつかみました。あいちゃんの心臓は、びっくりして止まりそうになりました。力一杯おじさんの手を外そうとしましたが、大人の力はとても強くて外せません。あいちゃんは、恐ろしくなりました。

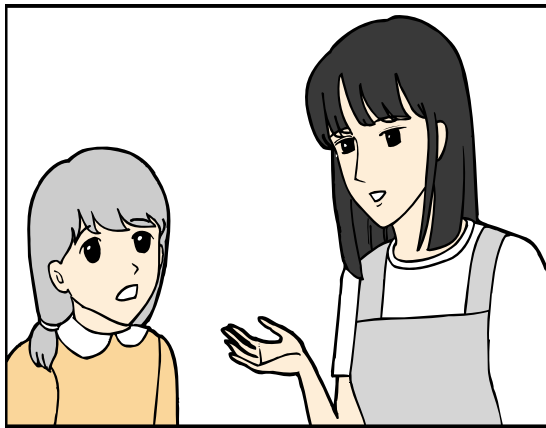
*主要発問2：「もし、自分だったらどうする？」

6 枚目



でも、あいちゃんは勇気を出して、大声で叫びました。「たすけてー！」すると、すぐ近くの家の庭から「どうしたの？だれか外にいるの？」という声が聞こえました。おじさんは、びっくりして走って逃げて行きました。

7 枚目



あいちゃんは、走って家に帰りました。そして、叱られるかもしれないと思いましたが、おかあさんに、このことを全部話しました。するとお母さんは優しく「そう、怖かったでしょう。でも、もう大丈夫よ。いやなことをよく話してくれたわね。今度からは、もっと気を付けてね。」と言いました。

あいちゃんは、やっと安心することができました。

【資料2】板書例

